

日本農業労災学会設立10周年記念シンポジウム開催要領

記念シンポジウム統一テーマ

『新たな農業労災学の展望と農作業事故の根絶を目指して』

<10周年記念シンポジウムの開催趣旨>

2014年4月に設立された日本農業労災学会は、「農業が全産業の中で最も危険な業種に陥りつつある」という危機感に立ち、事故防止のためには抽象的な理論やパフォーマンスに陥ることなく、「事故ゼロを目指すリスクアセスメント手法の機能の発揮」を産学官の連携で実学主義に基づいて推進することを目指すという目的の元に活動をスタートした。

スタート後の学会活動の中心は、毎年のシンポジウムの開催による農業労災学の体系化と農作業事故予防ノウハウ・労災補償対策の確立に置き、①農作業事故実態と予防対策の解明、②リスクマネジメントモデルの開発方法やリスクアセスメントの実践的な運用方法の解明、③労災補償対策の課題の明確化、④労災予防の組織的マネジメントと補償システムの解明、⑤自助・共助・公助連携による事故防止、⑥事故防止の新たな技術開発とGAPを活用した農業労働安全の組織的・戦略的展開、⑦JAと社労士との連携による事故防止・補償対策の展開、といったテーマで問題解明に取り組んできた。

また、農業者の高齢化の急速な進展と農業従事者の減少と農作業の孤立化、さらには農業機械の大型化により死亡などの重大事故発生のリスクが高まり「農業はますます危険産業化」している。こうした状況を憂いた我々は、2021年6月3日に緊急声明「農業者の命の非常事態」「農作業事故の撲滅ー死亡事故ゼロを目指してー」を発出し、次の5つの提言を行った。

- ① 事故抑止の農機具開発と単位JA主軸の「農作業防止への戦略的目標と工程表」の策定
- ② 都道府県域と各地域段階での農作業安全推進協議会の設置とその機能発揮への財政支援
- ③ 事故情報を一元化して解析・フィードバックに資するための体制づくり
- ④ 事故に対する補償充実と労災保険特別加入促進等に資する労災保険制度の改正
- ⑤ 農作業安全対策から労災補償までを体系的にカバーする法制度の整備と予算の拡充

学会設立10周年を迎えた今、以上の5つの提言の実現に学会の総力を上げて取り組むことを決意するとともに、大会シンポジウム『新たな農業労災学の展望と農作業事故の根絶を目指して』を開催することとした。このシンポジウム開催の趣旨は、日本農業労災学会設立後の10年間の活動の総括に基づき、農業労災学の新たなパラダイムと方法論開発のイノベーションの方向を明らかにするとともに、本会が「農作業事故の根絶を目指して」活動する関連する関係各組織のプラットフォームになることを強く各方面に発信することにある。

<開催日・開催方法・プログラム>

- ・開催日時：2023年10月20日（金） 11:00～16:40
- ・開催場所：東京農業大学 世田谷キャンパス 横井講堂
- ・開催方法：対面とOnlineのハイブリッド開催
- ・開催プログラム

- 11:00～12:00 第3回学会賞表彰式
 13:00～16:35 シンポジウム（開会式、記念講演、パネルディスカッション）
 17:00～18:30 記念祝賀交流会（レストランすずしろ）

<シンポジウムの構成とねらい>

- ・会長あいさつ 13:00～13:05
- ・来賓あいさつ（東京農業大学長、関係機関代表からのメッセージ） 13:05～13:20
- ・記念講演についての座長解題（座長：北田会長） 13:20～13:25

第I部 記念講演（13:25～14:45）

目的：記念講演では、日本農業労災学会の10年間の活動の総括を行うとともに、今後の本会の活動方向について、それぞれの専門領域から提言をいただく。そのため、以下の4つの講演を企画した。講演1では、門間前会長による「農業労災学の新たなパラダイムと方法論開発のイノベーションの方向」である。本講演では、日本農業労災学会10年の活動の中に流れているパラダイムと方法論を総括的に評価するとともに、農業労災学の新たなパラダイムと方法論構築の方向を提案する。講演2では、田島副会長による「利用者にやさしい農業機械開発の現状と今後」である。本講演では、農業労働者の安全を守る農業機械の開発の現状と今後の開発方向を整理するとともに、高齢者、女性等、多様な特性を有する農業者が求めるユーザーフレンドリーで安全な農業機械の姿を提案する。講演3では、中村理事による「農業者の命を守る法制度・労災補償の課題と今後の展開方向」である。本講演では、事故を未然に防止するための法制度の整備と、万が一事故が発生してしまった場合の補償制度の課題と今後の展開方向について社労士の立場から提案する。講演4では宮永副会長による「JAグループの農業労災の安全対策と労災補償対策の取り組みの実態・課題と今後の展開方向」である。これまで本学会誌に掲載されたJAグループによる農業労災の安全対策と労災補償対策の展開と課題に関する報告を総括するとともに、JA、市、農業委員会、JAが連携して推進しているJAはだの先進的なチャレンジを紹介して、JAグループによる活用可能性について提案する。

- 講演1 農業労災学の新たなパラダイムと方法論開発のイノベーションの方向** 13:25～13:45
 日本農業労災学会 前会長 門間 敏幸（東京農業大学名誉教授）
- 講演2 利用者にやさしい農業機械開発の現状と今後** 13:45～14:05
 日本農業労災学会 副会長 田島 淳（東京農業大学教授）
- 講演3 農業者の命を守る法制度・労災補償の課題と今後の展開方向** 14:05～14:25
 日本農業労災学会 理事 中村 雅和（いのしし社会保険労務士事務所所長）
- 講演4 JAグループの農業労災の安全対策と労災補償対策の取り組みの実態・課題と今後の展開方向** 14:25～14:45
 日本農業労災学会 副会長 宮永 均（JAはだの代表理事組合長）

第Ⅱ部 パネルディスカッション (15:00～16:35)

テーマ「農作業事故の根絶を目指して—自助・共助・公助の連携を創る」

目的：阪神大震災・東日本大震災の記憶は、いまだに我々の脳裏に鮮明に焼きついている。こうした未曾有の災害の局面でその重要性が認識されたのが自助・共助・公助の連携による災害への対応である。農作業事故は、決して自己責任として処理されるべきものではなく、自助・共助・公助が連携してその防止に取り組むとともに、不幸にして発生してしまった場合には連携して補償対策に当たらなければならない災害である。

第Ⅱ部のパネルディスカッションでは、農業労働災害の防止・補償対策の現場で活動されている方々に取り組みの内容とその思いを語っていただくとともに、今後の自助・共助・公助の連携の方向性ならびに日本農業労災学会が果たすべきプラットフォーム機能について提言をいただく。

司会進行：緒方 大造（日本農業新聞論説委員）、半杭真一（東京農業大学准教授）

アドバイザー：白石正彦（東京農業大学名誉教授）

参加パネリスト（6名）

農業者代表（自助）：高橋 良行（(株)グリーンファーム代表取締役（福島県）、日本農業法人協会副会長）

JA 代表（自助・共助＝協助）：石澤 哲（全国農業協同組合中央会 営農・担い手支援部営農企画課考査役）

農林水産省農産局（公助）：土佐 竜一（農林水産省農産局技術普及課生産資材対策室長）

日本農村医学会（共助・公助）：夏川 周介（佐久総合病院名誉院長）

社労士代表（共助）：鈴木 泰子（社会保険労務士法人リライアンス代表）

農機メーカー代表（共助）：稲垣 勇一（クボタ農作業安全検討会 社内連絡会議事務局・農機国内サービス事業推進部担当部長）

パネルディスカッションの進め方

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| ① 座長団・パネラー紹介とパネルディスカッションの目的説明 | 15:00～15:05 |
| ② パネラーによる話題提供：一人5分程度 | 15:05～15:35 |
| ③ パネルディスカッションの実施 | 15:35～16:15 |
| ④ 参加者とパネラーとの意見交換 | 16:15～16:30 |
| ⑤ 座長総括 | 16:30～16:35 |

閉会挨拶 副会長 堀内 政徳 16:35～16:40

閉会 16:40

記念祝賀交流会 17:00～18:30